

スウェーデンにおける通常学校と知的障害特別学校の学習指導要領  
(Läroplan)の改訂  
ーインテグレーションおよびインクルージョンの観点からー

是永かな子

高知大学学術研究報告 第71巻  
抜刷 (2022)

# スウェーデンにおける通常学校と知的障害特別学校の学習指導要領

## (Läroplan)の改訂

—インテグレーションおよびインクルージョンの観点から—

是永かな子

(高知大学教育研究部人文社会科学系教育学部門・高知ギルバーグ発達神経精神医学センター)

Revised Curriculum (Läroplan) for Regular Schools and Special Schools for Children  
with intellectual disabilities in Sweden.  
: Integration and inclusion perspectives

Kanako Korenaga

*Kochi University Research and Education Faculty Humanities and Social Science Cluster Education Unit,  
Kochi Gillberg Neuropsychiatry Centre*

Abstract: In this study, I examined the reasons why Sweden has maintained its curriculum for special schools' children with intellectual disabilities in the 2022. Specifically, an overview of the revised curriculum for regular schools and special schools' children with intellectual disabilities was presented. A comparison of the content of the 2022 courses of study for special schools with intellectual disabilities and the 2011 courses of study for special schools' children with Intellectual disabilities was then made. The evolution of the curriculum in regular schools and special schools for children with intellectual disabilities from the perspective of integration and inclusion suggests the following trends. The 1960s proceed the development of 'local integration', whereby regular schools and special schools for children with intellectual disabilities were physically integrated. In the 1970s and 1980s, reforms were discussed to make regular schools more responsive to diverse individuals. In the 1990s, the unification of the curriculum and jurisdiction of regular schools and special schools for children with intellectual disabilities was carried out. However, in the 2000s, the promotion of inclusive education by integrating regular schools and special schools for the mentally retarded, including the dismantling of special schools for children with intellectual disabilities, came to a halt. Therefore, in the process from the 2010s to the present, while maintaining the curriculum of both schools, the central content has been simplified, the evaluation criteria have been clarified and the discretion of teachers has been expanded. As a result, it was possible to analyses the process of materializing inclusive education by strengthening the proximity of educational content while maintaining the school system of regular schools and special schools for children with intellectual disabilities.

キーワード: スウェーデン 学習指導要領 知的障害特別学校

Key words: Sweden Curriculum Special Schools for Children with Intellectual Disabilities

## 1. 研究の目的

スウェーデンは2022年秋学期から知的障害特別学校学習指導要領、聴覚障害・重複障害特別学校学習指導要領、サーメ学校学習指導要領、基礎学校・就学前学級・学童保育学習指導要領を改訂した<sup>12</sup>。高等学校の学習指導要領や成人教育の学習指導要領は部分的に改訂している<sup>3</sup>。

学習指導要領に関してスウェーデンは、知的障害をはじめとした特別な学校の学習指導要領も通常学校としての基礎学校の学習指導要領も1994年に義務教育段階で一元化した。しかし、2011年に再度特別な学校の学習指導要領を制定し、今回2022年改訂においても特別な学校それぞれの学習指導要領を維持している。特別な学校の学習指導要領の維持は、他の北欧諸国ノルウェー、デンマーク、フィンランドを見てもスウェーデンのみである。

スウェーデンでは国連の障害者権利条約を2007年3月に署名、2008年12月に批准している。国連の障害者権利条約に掲げられるインクルーシブ教育推進にもかかわらず、なぜ2011年に特別な学校の学習指導要領を再度提示したのであるか。また2022年の改訂においても知的障害特別学校の学習指導要領が維持されている理由は何か。これまでの基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領改訂も念頭に検討することを本稿の目的とする。

よって本稿では、学習指導要領の改訂に象徴される教育改革の動向を、現在の9年制義務教育学校である基礎学校の1962年の成立と知的障害特別学校が義務制となった1967年以降、2022年の学習指導要領改訂までを対象として、考察する。とくに1960年代のノーマライゼーション理念提起以降提唱されたインテグレーションや1994年のサラマンカ声明によって明示されたインクルージョンを念頭に、スウェーデンにおける学習指導要領の変遷と知的障害特別学校を中心とした今後のインクルーシブ教育の方向性について分析することをめざした。

## 2. 研究の方法

本研究は文献検討の方法論を用いた。分析対象は、基礎学校成立以降の通常学校の学習指導要領と知的障害特別学校義務制以降の知的障害特別学校の学習指導要領、そして現在に至るまでとする。文献は時系列で検討し、相互の内容についてインテグレーションやインクルージョンの観点から検討した。その上でとくに2022年の知的障害特別学校の学習指導要領の変更点について考察する。

## 3. 結果

### 3.1 基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領の改訂の概要と統合をめぐる議論

まず1960年代の動向として、1962年に統一学校としての基礎学校が成立した。その際には1962年基礎学校学習指導要領(Lgr62)<sup>4</sup>が制定され、1969年にはコース制を廃止した基礎学校学習指導要領に改訂(Lgr69)<sup>5</sup>された。

知的障害教育は知的障害特別学校が義務制となった1967年直後、1968年に知的障害特別学校の学習指導要領(Lsä68)<sup>6</sup>が制定された。

1960年代にはノーマライゼーションやインテグレーションが提唱されていたが、通常教育は複線型の教育体系を単線型の教育体系に移行すること、知的障害教育は重度知的障害児にも義務教育を保障すること、を主眼に教育改革が行われていた。同時に経済的、思想的な理由から、知的障害特別学校の基礎学校への「位置的統合」が本格的に着手された。

よってこの時期は学校教育体系としては分離的教育の成立期であり、物理的条件としてのローカルインテグレーションが推進されたといえよう。

1970年代には1973年に知的障害特別学校のための学習指導要領(Lsä73)<sup>7</sup>が示された。この時には教科内容(Läroämnen)のみならず職業知的障害特別学校(Yrkesskolen)や4年制職業教育(Fyraårig yrkesutbildning)なども記載され、職業教育を重視した内容になった。

通常教育は1974年のSIA(skolans inre arbete)調査委員会(utredningen)報告書<sup>8</sup>で、教育上の困難を抱える子どもが隔離されるような組織を可能な限り避けることが学校の目的であると強調された。個別差異化の実施方法の検討も義務づけられるなど、より柔軟な基礎学校の在り方が模索されていた。

このように、通常学校内のさらなる教育改革が着手されていた一方で、1970年代は知的障害教育の内容の改善が行われていたため、通常教育と知的障害教育のインテグレーションを推進する動向は確認されない。

1980年代には、SIA調査委員会の検討を経て1980年に基礎学校の学習指導要領(Lgr80)<sup>9</sup>が改訂された。その際には学級の「枠」を取り払い、学習集団としてのワーキングユニット(Arbetsenheten)が導入された。

1980年代に特別学校は、視覚障害や聴覚障害を含めて分離的教育措置としての特別な学校存続の意義の検討が主に行われていたため<sup>10</sup>、知的障害特別学校の学習指導要領の改訂はなされなかった。

このように1980年代は基礎学校内にいっそうの柔軟性を持たせる改革が議論されたが、やはり通常教育と知的障害教育のインテグレーションを推進する議論はない。

1990年代に入って、1990年に知的障害特別学校のための学習指導要領(Lsä90)<sup>11</sup>が示された。しかし、1994年に義務教育学校、就学前学級、学童保育のための学習指導要領が制定された(Lpo94)<sup>12</sup>。この段階で知的障害特別学校を含めて全ての義務教育学校の学習指導要領が一元化された。

1984年から1991年にかけての「フリーコミュニティの実験」という地方自治改革、また1989年に召集された知的障害特別学校委員会(Särskolekommittén)の審議を経て、県立であった知的障害特別学校が基礎学校と同じコミュニティ(基礎自治体)立に管轄移行することも決定した<sup>13</sup>。

このように1990年代は地方分権とともに二元論を前提としたインテグレーションから一元論・多元論を前提としたインクルージョンに転換されたといえよう。

2000年代には、2002年に知的障害特別学校のいっそうの統合を推進すべく、カールベック委員会(Carlbeck-kommittén)<sup>14</sup>が召集されたものの、研究・調査結果や関係者の意見集約をもとに、委員会は2004年知的障害特別学校独自の学校形態を維持するとの結論を導いた。

2000年代には学習指導要領の改訂は行われなかった。

このように2000年代はインクルージョン時代における知的障害特別学校の必要性が明示された時期と言えよう。

その後2011年に、基礎学校の学習指導要領(Lgr11)<sup>15</sup>、知的障害特別学校の学習指導要領(Lsä11)<sup>16</sup>がそれぞれ制定された。2011年知的障害特別学校の学習指導要領では、より知識を重視した、より簡潔で焦点を絞った形式で学習指導要領が策定された<sup>17</sup>。

図1に示される基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領の改訂を経て、知的障害のある子どものいっそうのインクルーシブ教育は、次の段階としていかなる工夫を試みようとしているのであろうか、次に2022年版知的障害特別学校の変更点に注目しつつ、考察する。

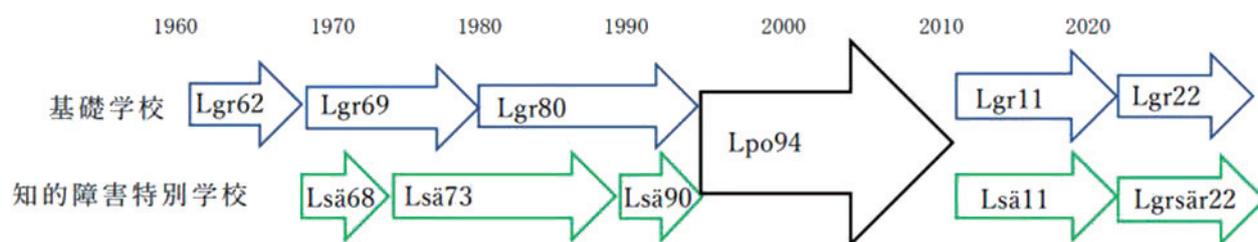


図1 基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領の改訂の概要

出典：著者作成。

### 3.2 2022年知的障害特別学校学習指導要領の改訂

#### 3.2.1 「セクシュアリティ、同意、関係」の追加

2022年秋学期から新しい学習指導要領が導入された<sup>18</sup>。特別学校の学習指導要領は、「学校の価値観と使命」、「教育の包括的な目的と指針」としての全般的な方向性の提示と、知識要件を補足した「シラバス(Kursplan)」で構成されている。

学習指導要領に新たに追加された全般的な方向性の内容として「セクシュアリティ、同意、関係

(sexualitet, samtycke och relationer)」がある。これは以前の「性と共生 (sex och samlevnad)」の内容を発展させたものである。

この変更について、2022年9月7日にスウェーデンの知的障害特別学校を訪問して、校長1名と学習指導要領担当教員2名に聞き取りを行った。結果は以下である。「セクシュアリティ、同意、関係」に変更された背景としては、社会の変化があげられる。学校は社会からの影響を受ける。セクシュアリティの問題に関しても様々な家庭の状況があるので、あらゆる状況の子どもを想定して学校で授業を行う必要がある。その際にただ「知識」を教えるのみならず、子どもから意見を引き出すことや議論を行うことが重要である。そして「同意」としても、最終的に得た結論にみんなが従うことが重要である、と<sup>19</sup>。

スウェーデンは2021年現在で人口の26,3%が外国生まれの両親を持つもしくは自身が外国生まれなどの「外国の背景のある (Utländsk bakgrund)」国民である<sup>20</sup>。シリア難民の受け入れはEU全体にとって困難な課題であり続けているが、現在はウクライナ難民の対応もある。よって、知的障害特別学校においても従来の男女平等やLGBT対応のみならず、宗教問題を含めた多様性の受容を前提とした、社会の構成員の育成が求められていると考察する。

学習指導要領では以下のように言及する。子どもの学習、選択、発達を制限するジェンダー枠組みを可視化し、打ち消すことも学校の責任に含まれる、と。「セクシュアリティ、同意、関係」についての知識領域では、子どもの健康と幸福を促進することも含まれる。近年は「子ども健康チーム (elevhälsoteam)」が設置され、教員のみならず学校にかかわる多職種の専門家によって、特別な支援やいじめや不登校への対策が協議される<sup>21</sup>。そして今後は、年3回健康診断を行うことにより、心身の健康状態を確認することが求められているのである。

大きく社会が変化していく過程で、十分な情報を得た上で、自立した選択をする能力を強化すること、自分や他人の権利を理解し、同意を得ることの重要性を伝えること、それにはジェンダーや暴力、抑圧と結びついた権力構造に関する知識を含む、とされる。ポルノを含む様々なメディアや文脈における人間関係やセクシュアリティの描かれ方について、批判的アプローチができるように成長させることが必要である。また子どもは、学校の中や外で危険を感じたときに「助けを求める方法」について知らされているべきである、と。

このように、知的障害教育において自立のための選択する力の育成、自分と他者の権利の尊重、暴力、抑圧に関する拒否のための知識の形成、(性)被害にあわないための援助希求力が求められていることが推察できる。

学校の「価値観」に関する活動においては、さまざまな形の不寛容、暴力、偏見を防ぐための「学校の責任」について言及している。近年は急増する移民・難民対応もあり、スウェーデン社会自体の不寛容が懸念されていることも影響しているのかもしれない。

学校の誰もが、民主的で規範意識の高いアプローチを採用する必要がある。子どもが性別に関係なく一緒に集まれるような組織を作ることも重要である。性別が人々の機会、人生の選択、生活環境にどのような影響を与えるかについて、子どもの理解を深める、と。

以上のように2022年学習指導要領に追加された内容では新たな社会において、男女のみならず多様な「セクシュアリティ」や異なる思想、背景をもつ他者との協議に基づいた「同意」を導くことによって、「関係」形成ができる市民の育成の具体化が求められており、知的障害特別学校においても知識を得て、判断し、自立していく子どものための教育の創造が必要とされていることがわかる。

### 3.2.2 算数に注目した学習指導要領の改訂点

2022年の全体の学習指導要領改訂では「子どもにとって利点」として、第一に、学習指導要領の組み合わせによる学習機会の増加、第二に、公平性と包括性の強化、第三に、子どもの知識をよりよく集約し、細部にこだわらない書面での評価や成績の提供、が示されている<sup>22</sup>。

以下に2022年知的障害特別学校学習指導要領に注目して、学習指導要領の改訂の意義についてみてみる。教科としては文化や環境の影響を受けにくく、日本の実情との比較も容易と推測される算数に注目した。まずは算数の中心的な内容について考察する。

これまでは、事実(fakta)の強調が不十分であり、中心的内容(centralt innehåll)が多すぎた。その上子どもの年齢や成熟度への適応(anpassning)が不十分であったとする。知識要件(kunskapskrav)も細かすぎたのである。そのため今回の学習指導要領の目的(syfte)と中心的内容は、より明確に焦点化された。今回の学習指導要領の改訂作業は、教員、研究者、行政当局、関係団体の協力のもとに行われてきた。その結果、事実と理解について注目すべきことが顕在化した。そのことも含めて内容(innehållet)の範囲を見直した。今回の学習指導要領の改訂においては低年齢の学習者のためには基本的なスキルに重点を置いている。そして、年齢が上がるにしたがって、分析力をより重視するようになる。

表1として2022年知的障害特別学校学習指導要領と2011年知的障害特別学校学習指導要領の算数の中心的内容について比較する。

表1 2022年知的障害特別学校学習指導要領と2011年知的障害特別学校学習指導要領の算数の中心的内容

2022年知的障害特別学校学習指導要領 中心的内容(1-3年)	2011年知的障害特別学校学習指導要領 中心的内容(1-3年)
<p>1, 数認識と数の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然数とその性質。数字が言葉や具体的な材料、記号や絵でどのように表現され、数列上にどのように表示されるのか。数字がどのように分割され、数や順序を示すために使用されるか。</li> <li>・子どもに関する場面で自然数がどのように使われているか。</li> <li>・全体の一部である分数の簡単な数字とその名付け方。</li> <li>・さまざまな数え方と、それを言葉や具体的な材料、記号や絵を使って表現したり、示したりする方法。</li> <li>・暗算と筆算における自然数での計算方法。計算におけるデジタルツールの使用。</li> </ul> <p>2, 代数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学的な類似性と等号の意味。</li> <li>・シンプルなパターンとその構成。</li> <li>・明確な段階的な指示と、その表現方法とその用い方。段階的な記号の使用方法。</li> </ul> <p>3, 幾何学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空間における物体の位置を表す一般的な位置語。</li> <li>・基本的な幾何学的二次元の物体その名付け方。</li> <li>・いくつかの一般的な単位を使って、長さ、質量、体積、時間を測定する。</li> <li>・行事の時間的順序の計画と所要時間の見積もり。</li> </ul> <p>4, 統計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な表と図、そして子どもに関する場面での使用方法。</li> </ul> <p><u>5, 問題解決</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに関する場面での算数的問題解決の方略。</li> </ul>	<p><u>5, 問題解決</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な場面における算数的問題解決のための方略。</li> </ul> <p>1, 数認識と数の利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>1から100までの</u>自然数と、その大きさ、比較、分割の方法。それらが数や順番を示すためにどのように使われるか。</li> <li>・自然数とその表現方法について、言葉、具体的な材料、記号、絵、数列で説明する。</li> <li>・四則演算とそれを言葉や具体物、絵や記号を使ってどのように表現し、示すか。</li> <li>・暗算、筆算、デジタルツールの使用における、足し算と引き算の主な方法。</li> <li>・<u>分数の数字</u>、例えば半分としての<math>\frac{1}{2}</math>。</li> <li>・日常的な場面での合理性評価。</li> </ul> <p>2, 代数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・等号の意味。</li> <li>・数列の単純なパターンや単純な幾何学模様がどのように構成されるか。</li> <li>・明確な段階的な指示の従い方。段階的な記号の使用方法。</li> </ul> <p><u>6, 時間とお金</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間、今日、年などの単位と時間の表現。</li> <li>・紙幣と硬貨の名称とそれぞれの価値の関係。デジタル決済の方法。</li> </ul> <p>7, <u>確率・統計</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格比較や温度測定など、子どもに身近な場面での調査。表や図からどのように情報を導き出すか。</li> </ul> <p>3, 幾何学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置に関する単語とその使い方。空間における位置を表すのに使われる<u>上下</u>、<u>前後</u>など。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつかの幾何学的な物体. どのように名付けられ, どのような形をしているのか.</li> <li>・長さ, 幅, 高さなどの幾何学的な概念.</li> <li>・長さ, 体積, 質量の測定と, リットルやキログラムなどの一般的な単位の測定.</li> <li>・<u>幾何学模様.</u></li> </ul> <p><u>8, 科目固有の概念</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の問題を説明するための算数の言葉, 概念, 記号など.</li> </ul>
--	--

註：数と下線は著者が付した。

出典：Skolverket, Jämför kursplanerna, Matematik Lgsär22-Lgsär11.

学習指導要領の中心的内容は1-3年, 4-6年, 7-9年の区分で示されている。

今回は1-3年に注目した。まず中心的内容の数が8から5に減っている。「事実の強調が不十分」との指摘にもあるように, 2011年版学習指導要領で最初に掲げられていた「問題解決」は2022年版では最後に言及されている。知識(Kunskaper)はそれ自体に価値がある。事実と理解(förståelse)がより重視されるため, 「能力(förmåga)」ではなく「知識(kunskaper)」という言葉を使うことが多くなった, と。このように, 低学年では基礎的な知識, スキルを重視して, その後分析力, 自主性に移行することが推定されている。

「日常的な場面」よりも「子どもに関する(elevnära)場面」という表現に変化している。自然数も1-100と限定されてはならず, 分数や時間とお金, 確率や具体例も削除されている。そのため, 子どもの実態に合わせることでより容易であろう。

### 3.2.3 評価や成績の提供とその意義

次に評価に関する変更点についてみる。学習指導要領は, 教育の質(kvaliteten)と同等性(likvärdigheten)を強化する必要がある。教員は成績評価のためのより良いツールを手に入れることができ, より信頼性の高い, 公正な(rättvisande)成績を示すことができるようになる, と。知識要件は, 評価(betygssättning)が良いサポートになるとされている。以下に評価基準について比較する。

表2 2022年知的障害特別学校学習指導要領と2011年知的障害特別学校学習指導要領の算数の評価基準

2022年知的障害特別学校学習指導要領 中心的内容(1-3年)	2011年知的障害特別学校学習指導要領 中心的内容(1-3年)
算数の科目における知識の評価基準および成績評価基準 3年生終了時に許容できる知識の評価基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自然数を使い, 順序付けし, 基本的な算数の概念の使用に参加できる。</li> <li>・子どもが計算を実行し, 日常的な問題を解決することに参加できる。</li> <li>・子どもに関する場面で, 算数を使って簡単な問題を解決することに参加できる。</li> <li>・子どもは記号やその他の算数的表現を使うことに参加できる。</li> </ul>	知識要求 3年生終了時に許容できる知識要件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが日常生活場面で簡単な問題解決に参加することができる。</li> <li>・子どもが, 表や図の情報を読み取ることに参加する。1~5までの自然数の読み, 書き, 綴りができる。また, 具体的な教材やデジタル技術, 暗算や筆算の方法を用いて, 1~100までの数の計算を行い, 足し算や引き算の問題を解くことができる。</li> <li>・子どもが距離, 質量, 体積の測定と読み取りに貢献</li> </ul>

	<p>する。価格、数量、時間、その他の算数的情報の妥当性についての会話に参加することができる。また、自分の計算や解答の妥当性についての会話にも参加する。算数に関する会話で、科目特有の単語、概念、記号を使用することができる。</p>
--	---

出典：Skolverket, Jämför kursplanerna, Matematik Lgsär22-Lgsär11.

「知識要件(kunskapskraven)」から「評価基準(betygskriterier)」に表現が変更されており、内容も単純化されている。成績が設定されているすべての校種・学年において、知識要件は評価基準に置き換わる。

教員は教授が中心となるのであり、教育的評価と成績評価のバランスを良くすることが重要である、とも指摘されている。このように、教員の自由裁量を増やし、教授行為を重視し、評価ありきではない学校教育活動が求められているようである。より柔軟なインクルージョンが推進されることも期待できる<sup>23</sup>。

教員は、子どもの知識を評価基準に照らして総合的に評価し、子どもの知識に最も適した評点を与える。スウェーデンでは6年生から成績評価を行うため、6年からの新しい評価基準がABCDEの5段階として明示されている<sup>24</sup>。教員が特定の評価形式を使用することを要求しないため、一貫性を持たせやすい。この新原則により、教員は子どもの知識に最も適した成績をより自由に設定することができるようになった、と。

このように、細部にこだわらない書面での評価や成績の提供は、位置的統合にある基礎学校と知的障害特別学校の教育資源の共有を念頭に置いた「統合児(Integrerade elever)」の推進、基礎学校と知的障害特別学校の中心的内容の共通性の強調<sup>25</sup>も考慮すると、異校種間での学習指導要領の双方向履修の可能性を増やしているといえる。

#### 4. 考察

スウェーデンが2022年の学習指導要領改訂においても知的障害特別学校の学習指導要領を維持している理由を検討するために、基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領改訂の概要を踏まえて、2022年知的障害特別学校学習指導要領と2011年知的障害特別学校学習指導要領の内容比較を行った。

通常学校と知的障害特別学校の学習指導要領の変遷をインテグレーションおよびインクルージョンの観点から考察した結果、以下のような傾向が示唆された。1960年代には基礎学校と知的障害特別学校が物理的に統合される「位置的統合」が進み、1970年代および1980年代には基礎学校がより多様な個に応じられるような改革が議論された。その上で1990年代に基礎学校と知的障害特別学校の学習指導要領および管轄の一元化が遂行された。しかし2000年代には知的障害特別学校解体も含めた基礎学校と知的障害特別学校を一体化するインクルーシブ教育推進が頓挫した。そのため、2010年代以降現在に至る過程では、まず双方の学校の学習指導要領を維持しつつ、中心的内容の単純化、評価基準の明示と教員の裁量拡大を行っている。その結果として、基礎学校と知的障害特別学校という学校体制を維持した上での教育内容の近接性強化によって、インクルーシブ教育を具体化しているという過程が分析できた。

#### 5. 謝辞

本研究は科研費(18K02793)の助成を受けたものである。

#### 註・引用文献

<sup>1</sup> Skolverket, Ändrade läroplaner och kursplaner hösten 2022, <https://www.skolverket.se/undervisning/grundskolan/aktuella-forandringar-pa-grundskoleniva/andrade-laroplaner-och-kursplaner-hosten-2022>(2022年10月9日参照)。

<sup>2</sup> 学習指導要領は、知的障害特別学校学習指導要領(Läroplan för grundsärskolan, Lgsär22)、聴覚障害・重複障害特別学校学習指導要領(Läroplan för specialskolan, förskoleklassen och fritidshemmet, Lspec22)、サー

メ学校学習指導要領(Läroplan för sameskolan, förskoleklassen och fritidshemmet, Lsam22), 基礎学校, 就学前学級, 学童保育学習指導要領(Läroplan för grundskolan, förskoleklassen och fritidshemmet, Lgr22), 就学前学校学習指導要領(Läroplan för förskolan, Lpfö 18), 高等学校学習指導要領(Läroplan för gymnasieskolan, Gy11), 成人教育学習指導要領(Läroplan för vuxenutbildningen, Lvux12) がある。

<sup>3</sup> 高等学校の英語, 数学, 現代国語のカリキュラムの改訂は, 2021年7月1日に高等学校で施行された。数学と英語の科目シラバスは, 成人教育(vuxenutbildningen)においては2022年1月1日に施行される。

Skolverket, Ämnesplanerna i engelska, matematik och moderna språk

[https://skolvarlden.se/artiklar/nya-lagar-och-regler-for-skolan-det-har-galler-2022](https://www.skolverket.se/undervisning/gymnasieskolan/aktuella-forandringar-pa-gymnasial-niva/forandringar-pa-gymnasial-niva#:~:text=%C3%84mnesplanerna%20i%20matematik%20och%20engelska,slutf%C3%B6ra%20kursen%20enligt%20tidigare%20%C3%A4mnesplan(2022年10月9日参照)。成人教育学習指導要領に関しては「パート1」と「パート2」(läroplan del 1 och 2)に変更が導入される。学習指導要領では, 教科の内容がより明確に書かれ, 成人教育の男女共同参画の使命が明確にされた。この変更は2021年7月2日に施行されたが, 2022年7月1日から初めて適用される。Skolvärden, <a href=)(2022年10月9日参照)。

<sup>4</sup> Läroplan för grundskolan 1962, Lgr 62.  
<sup>5</sup> Läroplan för grundskolan 1969, Lgr 69.  
<sup>6</sup> Läroplan för särskola 1968, Lsä 68.  
<sup>7</sup> Läroplan för särskolan 1973, Lsä 73.  
<sup>8</sup> SOU 1974:53.  
<sup>9</sup> Läroplan för grundskolan 1980, Lgr 80.  
<sup>10</sup> SOU 1982:19, 1.  
<sup>11</sup> Läroplan för särskolan 1990, Lsä 90.  
<sup>12</sup> Läroplan för det obligatoriska skolväsendet, förskoleklassen och fritidshemmet 1994, Lpo 94.  
<sup>13</sup> 是永かな子(2008)スウェーデンにおける教育政策の立案と評価に関するシステムの研究(その2)-1989年の知的障害特別学校委員会(Särskolekommitten)の検討を中心に-『高知大学学術研究報告 人文科学編』57, 9-17.  
<sup>14</sup> SOU 2004:98.  
<sup>15</sup> Läroplan för grundskolan, förskoleklassen och fritidshemmet 2011, Lgr 11.  
<sup>16</sup> Läroplan för grundsärskolan 2011, Lsä 11.  
<sup>17</sup> Ulrika Svensson(2016)Jämförande analys av särskolans läroplaner 1990 och 2011 Linköpings universitet, Institutionen för beteendevetenskap och lärande.  
<sup>18</sup> 2022年版知的障害特別学校学習指導要領に関しては, Åsa Hirsh, Redo för LGR 22, föreläsning 2022-03-29, Lgrsär 22, Med särskilt fokus på kapitel 1. や Skolverket 公式 Web サイト, SPSM 公式 Web サイトの関連情報から引用した。  
<sup>19</sup> 2022年9月7日にスウェーデン Patille Öjersjö Storegård skola において聞き取りを行った。  
<sup>20</sup> SCB, <https://scb.se/hitta-statistik/statistik-efter-amne/befolkning/befolkningens-sammansattning/befolkningsstatistik/pong/tabell-och-diagram/befolkningsstatistik-i-sammandrag/befolkningsstatistik-i-sammandrag/>(2022年9月24日参照)。  
<sup>21</sup> Skolverket, Extra anpassningar, särskilt stöd och åtgärdsprogram, <https://www.skolverket.se/regler-och-ansvar/ansvar-i-skolfragor/extra-anpassningar-sarskilt-stod-och-atgardsprogram>(2022年5月5日参照)。  
<sup>22</sup> SPSM 公式 Web サイト, Ändrade kursplaner i grundsärskolan från och med höstterminen 2022, <https://www.spsm.se/funktionsnedsattningar/utvecklingsstorning/>(2022年5月5日参照)。  
<sup>23</sup> 是永かな子(2022)スウェーデンにおける障害のある子どもの教育—2022年知的障害特別学校学習指導要領の改訂と統合教育の保障の観点から—『比較教育学研究』5-22。  
<sup>24</sup> Skolverket, Jämför kursplanerna, Matematik Lgsär22-Lgsär11.  
<sup>25</sup> Skolverket, Ändrade läroplaner och kursplaner hösten 2022.